

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 5 6	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
<p>Effect of moderate alcohol consumption on adipokines and insulin sensitivity in lean and overweight men: a diet intervention study.</p> <p>痩せている男性と太っている男性における中程度のアルコール摂取のアディポカインとインシュリン感受性への影響：食事介入研究</p>	
執筆者	
Beulens JW, de Zoete EC, Kok FJ, Schaafsma G, Hendriks HF.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Clin Nutr. 2008 Sep;62(9):1098-105.	
キーワード	
アルコール摂取、アディポネクチン、レプチン、インシュリン感受性	
要 旨	
<p>中程度のアルコール摂取が 2 型糖尿病リスクを減少させることが報告されており、これはインシュリン抵抗性の改善によるものと考えられている。本研究では、中程度のアルコール摂取のアディポカインとインシュリン感受性への影響を調べた。11 名の痩せた男性 (BMI 18.5-25) と 9 名の太った男性 (BMI 27 以上) を被験者とし、3 週間ほど毎日、3 缶のビール (アルコール 40g) か、アルコールフリーのビールを飲んでもらった。中程度のアルコール摂取によって、アディポネクチンとグレリンはそれぞれ 11% と 8% 上昇し、ASP は 12% 減少したが、レプチンとレスチンは変化しなかった。経口的ブドウ糖負荷試験 (OGTT) でインシュリン感受性を見たところ、中程度のアルコール摂取による影響は見られなかったが、アルコールフリーのビール摂取よりも、普通のビール摂取で 2 時間後の血中グルコース濃度が低いことがわかった。また、同様にアルコールフリーのビール摂取よりも、普通のビール摂取で OGTT90 分後に遊離脂肪酸とグルカゴンのより強い上昇が見られた。インシュリン感受性の指標とアディポネクチンの変化については正、レプチンと ASP の変化については負の相関があることがわかった。痩せた人と太った人において、以上の結果で差異は見られなかった。これらのことから、中程度のアルコール摂取はアディポネクチンとグレリンを増加、ASP を減少させ、これらの変化がインシュリン感受性の改善に関与していると考えられた。</p>	